

中国語における形容詞一語文の間主観性
—日本語形容詞語幹構文との比較を通して—

広島大学大学院 張曉琳
happy linda529@hotmail.com

1 問題提起

- ・日本語：(1a) (2a)のように、話し手が思わず自らの感覚を表出する際、形容詞語幹だけで構成される一語文が数多く存在している (cf. 笹井 2005, 富樫 2006, 今野 2012 など)。
- ・中国語：同じ条件で、(1b) (2b) が示すように形容詞が単独で一語文になることはない。(1c) (2c)の複音節形容詞も容認されないこと→単音節に関する音韻的な制約ではない。
 - (1) a. (とても辛いカレーを食べて) からっ。 (富樫 2006:165)
b. (同じ条件で) *辣。(辛い。)
c. (同じ条件で) *辣辣的。(ピリピリと辛い。)
 - (2) a. (暖かい部屋から屋外に出て) さむっ。 (富樫 2006:165)
b. (同じ条件で) *冷。(寒い。)
c. (同じ条件で) *冷飈飈的。(風が激しいように寒い。)
- ・中国語には形容詞一語文が全く存在しないというわけではない。
例：看護師に注射を打たれて“疼！”といった、相手に非難の意味を込める場合には容認される (cf. 徐一平 2009:75)。また、いつも通りのカレーの辛さを描写する場合や寒い屋外を歩いているような場合であれば、(1c) (2c)も容認される。しかしながら、これらは話し手の思わぬ感情表出として現れる形容詞一語文ではないことに留意しておく必要がある。
- ・本研究では、町田(2020)の間主観性の分析を援用し、中国語形容詞一語文の使用制限について考察する。

2 先行研究

2.1 日本語の研究

- ・笹井(2005:12-15)：「形容詞語幹・形容動詞語幹タイプ：熱(あつ)！きれい！」を感動文の一つのタイプに位置付けている。
- ・富樫(2006:170)：語幹単独用法の制約は次のように指摘している。
 - (3) 瞬間的・現場的な事態の認識に限られる(結果的に事態は外的なものが多い)
 - (4) 程度や度合いの判断は加わらない
 - (5) 非伝達的
- ・今野(2012:7)：形容詞語幹構文を「イ落ち構文」と呼び、主語一述語構造 ((6)の SC

部)のみを備え、それよりも構造的に上位に位置する否定辞 (Neg), 時制辞 (T), 補文
化辞 (C) の各機能範疇及びその投射 ((6)の破線で囲んだ部分) は持たない。

(6) [CP ...[TP ...[NegP ...[SC ...]]]] (今野 2012:7)

・今野(2012:18,21) :

イ落ち構文が表す瞬間的現在時における話者の感覚や判断は、単に表出され
たものであり、他者への伝達を目的としたものではない。

イ落ち構文は、話者が、眼前の事態に対し、瞬間的現在時の直感的な感覚や
判断を表出する私的表現行為専用の構文である。

・清水(2015) : 「形容詞語幹型感動文」に聞き手が存在する場合にも使われる。

(7) (カフェのマスターが髪をほどき、胸まできた髪を両手で掻き上げるのを見て)「長
っ!」(ブリヂストン「BLIZZAK」のCM, 石原さとみ) (清水 2015:129)

(8) (細身のスーツを着た男性に対して)「あつ、スーツ細っ!いいじゃん、ありだよ、
あり」(AOKI「もてスリム」のCM, 上戸彩) (清水 2015: 130)

★本研究：清水(2015)で挙げている例を、聞き手の存在を意識していない独り言でも解釈で
ある。さらに、形容詞語幹構文が主語や指示詞と共に起しても、話し手の認識の範囲内で、
「他ではなく、これだ!」という排他性があり、独り言として解釈できないと言わない。

2.2 中国語の研究

・徐一平 (2009:75) : 日本語と中国語の形容詞一語文の相違

- (9) a. (下手な看護婦からいきなり注射を打たれて)
<日>いたっ! (あるいは「痛い!」) <中>哎呦!
b. (薬缶がかなり熱いのを知らないで、触ってしまったとき)
<日>あつっ! (あるいは「熱い!」) <中>哎呦! (徐一平 2009:75)

日本語: 「痛い」, 「熱い」, または「いたっ」「あつっ」のような表現がよく使われる。

中国語: ただそのときの気持ちの直接的な表現になる感動詞“哎呦! (あら!)”

相手に非難する際に, “疼! (痛いよ!)” “烫! (熱いよ!)”

2.3 まとめ

本研究: 日本語の「うまっ!」「さむっ!」のような表現=「形容詞語幹構文」

- ・日本語の形容詞語幹構文についての研究がだんだん注目されてきた。
- ・中国語の形容詞一語文に関する研究が稀である理由は、聞き手に訴える表現以外に、容認
されないのであろう。

3 考察

3.1 対峙型間主観性と同化型間主観性

・中村(2016:45)図1:

身体的感覚を眺めて、描写しているのではない→観る側 S と観られる側 O が未分→円が点線の円で表示する→両向きの矢印が明確なインタラクションではないため、点線で示す。

太線の矢印=「寒い」という感覚が身体の中に生じている。

⇒図2: S と O を重ねて表示する。S/O=未分性を表し、点線の円で示す。

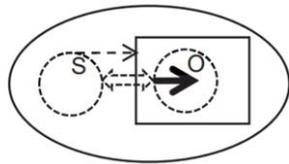


図1 「寒い！」中村(2016:45)

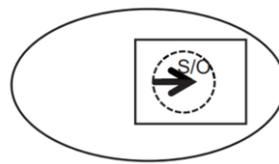
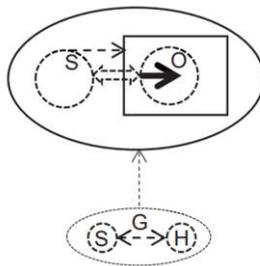


図2 「寒い！」中村(2016:45)

・平岩(2019:5): 図2=形容詞語幹構文「さむっ！」の認知構造図にあたる。

図3=「(クーラーの設定温度を下げたのを見て) 寒い (よ)。」



グラント G が意識 (認識) される。

図3 「寒い (よ)。」平岩(2019:5)

★本研究: 図3 認識の場 (実線の楕円) の外に話し手 S と聞き手 H がいて認識する→✖

・王・上原(2019: 19): 性質形容詞¹とその重ね型の主観性

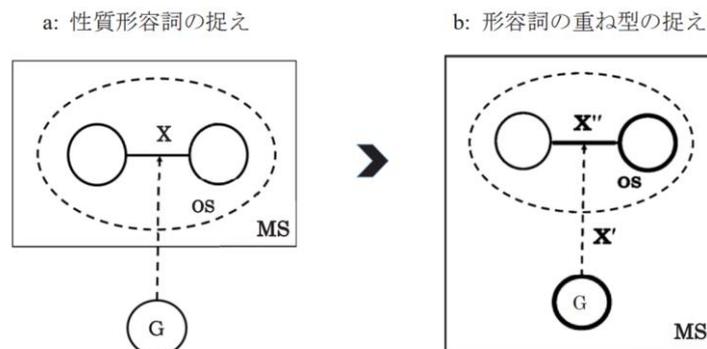


図4 主体化の図式化(王・上原 2019: 19)

¹ 王・上原(2019: 19)は述べている性質 (属性) 形容詞を朱(1956:3)の分類に参照。

図 4(a) : X=性質形容詞によって捉えられる客体と客体の属性との客観的な関係。

グラウンディング要素 G が最大スコープ MS の外にあり、客体の属性を捉えている。

図 4(b) : G は主体化を通して客体を捉えるとき、概念化者と関わる→X'で表す。

⇒意味解釈 X''=量や程度などを強調する、あるいは実在しない状況・状態が実際にあるかのように捉えられる。また、臨場性・現場性などの意味特徴も、G と関わる→関連する発話の時空が喚起された結果である=主体化に伴う意味拡張の結果

★本研究：主体化という変化を受けて表す現象ではなく、あくまでも事態把握レベルの主体的な(subjectivity)問題である。

⇒複音節形容詞（重ね型を含む）の捉え方は単音節形容詞に比べ＝「主体的な把握」

・町田(2020:246)：間主観性の二分類

対峙型間主観性：話し手が他者の視点（意識）をシミュレーション(simulate)することによって成立する間主観。

同化型間主観性：話し手が他者の視点を自己に同化(assimilate)させることによって成立する間主観。

(10) a. わあっ、ぶつかる！ (町田 2020:249)

b. #わあっ、僕たち（の車）が前の車にぶつかる！ (町田 2020:250)

町田(2020:249-251)：車の助手席に座っていて、追突事故を起こしそうな緊迫した場合→(10a)は全く自然である。このように主語や、目的語などの述語の項と呼ばれる名詞句を省略することができる。他者の存在を忘れるのが普通である→(10a)同化型間主観(図 5)をとる。一方、(10b)自己を客体視する対峙型間主観(図 6)はこのような緊迫した状況にあわない→非常に不自然な感じがする。

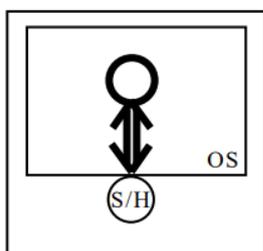


図 5 同化型(7a)

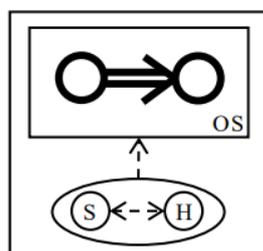


図 6 対峙型(8b) (町田 2020:251)

★本研究：(11) - (13)日本語の語幹構文と中国語の形容詞一語文

(11) a. (暖かい部屋から屋外に出て) さむっ。(=2a) (富樫 2006:165)

b. (同じ条件で) 啊! (あっ!)

(12) a. (クーラーの設定温度を下げたのを見て) 寒い(よ)! (平岩 2019:5)

b. (同じ条件で) 冷! (寒いよ!)

(13) a. (寒い屋外を歩いている最中に) 寒い。

b. (同じ条件で) 冷飈飈的。(風が激しいように寒い。)

町田(2020:251)の同化型と対峙型の図式を参照する図式：

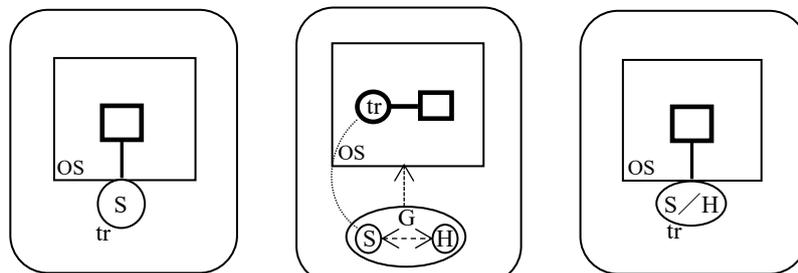


図7 個人型 (11)

図8 対峙型 (12)

図9 同化型 (13)

- ・ 図7：聞き手 H の存在を意識しない話し手 S の独り言として表現されている(11)→**個人型** (事態内視点＝主観的把握)。表現されないトラジェクター tr は主体的把握を受けておりオンステージ OS の外側にある。
- ・ 図8：S が H に自身の感覚を伝達している(12)→H を意識している**対峙型**。tr は、「私は寒い(よ)！」“我冷！”のように復元できる→ゼロ代名詞と呼ばれ、主体的把握とは異なる。⇒客体化された tr は OS 内でプロファイルされているが、言語化されていない。S と H は同時に同じような想起をさせる→グラウンディング要素 G が明示。
- ・ 図9：S は H に同化されている(13)→**同化型**。H は S の主観に取り込まれることになる→tr は主体的な把握を受ける→tr (=S/H) が OS の外側にありプロファイルされていない。
- ・ 提案：(1a) (2a)は個人型の事態把握であり、突然刺激を受けた場合、話し手は聞き手の存在を意識する時間がなく、独り言として瞬時的な感覚を表出する。中国語では、個人型をとることは非常に厳しい制約があるため、この場合許されるのは感動詞のみである。一方、中国語の単音節形容詞一語文→(12b)瞬間的に発する独り言ではなく、聞き手に何かを訴える場合＝聞き手の存在を強く意識する場合に用いられる**対峙型の間主観**。⇒単音節形容詞は対峙型であるため、(1b) (2b)が容認されない。
 最後に、複音節形容詞一語文→(13b)相手と感覚を共有している場合に用いられる→**同化型間主観**。⇒複音節形容詞は個人型の独り言ではないため、(1c) (2c)が容認されない。

4 まとめ

日本語：形容詞語幹構文「さむっ。」→**個人型**

形容詞一語文「寒い(よ)！」→**対峙型**

形容詞一語文「寒い。」→→**同化型**

中国語：感動詞“啊!(あっ!)”→**個人型**

単音節形容詞一語文“冷!(寒いよ!)”→**対峙型**

複音節形容詞一語文“冷飈飈的。(風が激しいように寒い。)”→**同化型**

参考文献

- 王安・上原聡(2019)「中国語の形容詞が持つ「主観性」を考える—性質形容詞とその重ね型を中心に—」『日本認知言語学会論文集』19:11-23.日本認知言語学会.
- 今野弘章(2012)「イ落ち:形と意味のインターフェイスの観点から」『言語研究』141:5-31.日本言語学会.
- 笹井香(2005)「現代語の感動喚体句の構造と形式」『日本文芸研究』57(2): 1-21.関西学院大学.
- 清水泰行(2015)「現代語の形容詞語幹型感動文の構造—「句的体言」の構造と「小節」の構造との対立を中心として—」『言語研究』148:123-141.日本言語学会.
- 徐一平(2009)「形容詞と形容詞一語文」池上嘉彦・守屋三千代(編)『自然な日本語を教えるために』ひつじ書房.74-77.
- 富樫純一(2006)「形容詞語幹単独用法について—その制約と心的手続き」『日本語学会 2006 年度春季大会予稿集』165-172.日本語学会.
- 中村芳久(2016)「Langacker の視点構図と(間)主観性—認知文法の記述力とその拡張—」中村芳久・上原聡(編)『ラネカーの(間)主観性とその展開』開拓社.1-51.
- 平岩加寿子(2019)「形容詞語幹構文—グラウンディング要素としての形容詞語尾「イ」「ナ」「ダ」—」『日本認知言語学会論文集』19:1-10.日本認知言語学会.
- 町田章(2020)「間主観性の類型とグラウンディング—いわゆる項の省略現象を中心に」南佑亮・本田隆裕・田中英理(編)『英語学の深まり・英語学からの広がり』英宝社.245-258.
- 朱德熙(1956)〈现代汉语形容词研究〉《语言研究》1,朱德熙(編)(1997)《现代汉语语法研究》商务印书馆.3-41.